

令和4年度 第2回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時 令和5年3月8日(水) 10時00分～11時35分

開催場所 北海道立文学館 地階講堂

I 次第

- 1 主催者挨拶
- 2 議題
 - (1) 令和5年度展覧会事業計画(案)について
 - (2) 令和5年度教育普及事業計画(案)について

II 出席委員

(敬称略; アイウエオ順)

氏名	所属等
東谷 一彦	【学識経験者】 札幌国際大学短期大学部教授
坂森 昇	【社会教育関係者】 公益財団法人北海道生涯学習協会 専務理事
辰巳奈優美	【利用者】 北海道文学館賛助会員(公益社団法人俳人協会北海道支部 事務局長)
渡部 浩士	【学校教育関係者】 札幌市立新川西中学校長(北海道学校図書館協会 理事)

※欠席委員

大澤 隆義	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会 事務局長)
-------	---

III 委員からの意見等

委員)

今、ご説明をお伺いして、感心するところが多く、いつも素晴らしいという感想を持っていて、来年度の計画も大変興味をそそられる良い内容になっている。アイデアが豊富で、リーフレットに記載された様々な企画のネーミングが素晴らしい、是非参加したいと皆さんが思う内容もあり、多岐にわたっていろいろな年齢層に働きかける企画が並んでいて、素晴らしいと思います。

きっと来年度もどんどん来館者が増えて、実りあるものになると思う。色々な目的で来館される方がいると思うが、何も知らない人がここでいろいろな作品、文学、映像に出会って興味を広げる機会になると思う。先ほど特別展をご紹介いただいた中でも、説明を伺っていると、いろいろ知りたくなり、ただ自分ひとりで眺めているよりも説明いただくのがとても刺激にもなるし、勉強にもなる。全部が全部、説明とはならないでしょうが、例えば音声ガイドであるとか、申し込むと説明ガイドが付くような企画も考えていただけると、初心者でもとても興味を持てると思います。

事務局)

ありがとうございます。音声ガイドの話も出ましたので今後検討していきたいと思えます。

委員)

事業計画を伺いましたが、これだけの内容を実施するのは大変だと思います。私どもの財団では「道民カレッジ」を運営しており、どうしても一旦リタイアした人たちが講座を受けて、単位を取り、「学士」、「修士」、「博士」の称号を目指している状況です。子どもたちを含めたもっと若い世代に受講してほしいが、なかなか難しい。今は来年度の計画段階でまだ具体化していないが、会場のかでる2・7にはそれなりのスペースがあるので、ワークショップなど子どもたちが来てもらえるような事業を企画したいので、この文学館の参加体験型事業も参考にさせていただきたいと思えます。

事務局)

文学館カレッジを開催していますが、受講者がだんだん少なくなり、運営がなかなか難しいところです。民間でもカルチャーセンターなどいろいろありますので、それらと差別化を図りながらどうやって行くか考える必要があります。

委員)

今日、特別展「細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句」を見せていただいて、チラシに協力団体として「俳人協会北海道支部」を掲載していただいたが、あまり協力できなかった気がして申し訳なく思えます。周りにはこのチラシをお配りして、見てもらえるように呼びかけていますが、講演会にはたくさん集まるものの、観覧はちょっと少なめな感じで、それがちょっと残念な気がする。俳句作家の五十嵐さんが解説する企画、ギャラリー・ツアーはとても良いと思えます。急に決まったようですが、お知らせはどのように行ったのですか。

事務局)

ホームページに登載し、ツイッターやフェイスブックでも発信してお知らせしています。また新聞の夕刊でも小さい記事ながらも紹介していただきました。

委員)

展示室内に、「映像で今後、配信する予定があります」というようなお知らせは見当たらなかったの、展示を見た後にちょっと復習というか、時間がなくて全部詳しく見られなかった人がいると思えます。あとから見たいという人や、講演会に参加できなかった人、申し込みできなかった人が結構多いようなので、ホームページで見ることができ、視聴できるという案内を展示室内に一言でもあるとわかりやすいと思えました。

事務局)

案内については早速検討したいと思います。

委員)

閲覧室の共同研究室については、コロナ感染対策が緩和されても、まだ使えるようにはならないのでしょうか。

事務局)

個人の主体的な選択を尊重し、マスク着用は個人の判断に委ねることとされた3月13日以降も共同研究室利用の対応はこれまで同様、まだ使えませんが、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、2類相当から季節性インフルエンザなどと同じ5類に変更される5月8日以降は緩和を考えております。講堂は当館の事業では定員を当初25人としていましたが、今は35人に緩和しており、更に5月8日以降は、もう少し緩和する予定です。ただし、新型コロナ禍以前は定員80人でしたが、そこまでは緩和できないのではと思っています。同時に閲覧室の共同研究室についても、いままで使用中止としていましたが、使用できるようにしたいと考えています。以前は定員を8人ぐらいとしていましたが、制限は残るものの、利用時間と人数を制限しつつもある程度緩和することを検討していきたいと思います。

委員)

地下鉄の幌平橋駅を利用しているが、札幌コンサートホールKitara（キタラ）のポスターはあるが、道立文学館のポスターは、中島公園駅にはあるものの幌平橋駅にはないですね。

事務局)

幌平橋駅もポスターの掲示を要望しているが実現していません。また中島公園駅の3番出口に道立文学館への(方向)案内標識が欲しいところですがこれも難しいようです。また駅構内のホームですと広告料が必要なのも難しいところです。

委員)

中島公園の中には道立文学館の案内看板を立てられないのでしょうか。

事務局)

管理事務所には話しているところですが、公園の管理上の問題や、景観のこともあるのでうちだけというわけに行かないのではないかと思います。

委員)

これだけの事業を企画されていることに敬意を表したい。先ほど特別展を見せていただいて、色々説明を伺っていると、展覧会をやるための色々なご苦労がよく分かりました。本当にいろいろな取組をされているが、子どもたちや若い人たちに知ってもらう、

来てもらう点が一番気になるところ。いま短大で学生が目の前におりますが、本、新聞を読まない。新聞を読んでいれば文学館のやっていることが分かるのですが、彼らはまず新聞を読まない現状にある。アンケートなどでは月に1冊も本を読まないようだ。こういう文学館という施設がある、ここに行くところなことが分かる、できるということを知周知ですね、高校の図書館に文学館のポスターを貼るとか、苦勞されているのですが、どんどん周知する方法を考えてもらって、文学館に目を向けてもらえば良いと思います。

新しい学習指導要領は2020年度から小学校、中学校と順次改訂になって、高校は2022年度入学生から実施される。改訂時に、高校の国語の内容が文学軽視ではないかと話題になった。実際先生方も苦勞され、なんとかやろうとしてはいるが、文学を扱う時間が少ない状況になっていることを考えると、子どもたちや学生が文学に目を向ける機会を作ってあげたいし、文学館がそういうことを発信する場であって欲しい。是非文学に目を向けさせるようなことをやっていただけるとありがたいと思います。

それと渡辺淳一文学館やこぐま座などの施設と連携ができたりすると良いのではないかと思います。

事務局)

こども人形劇場のこぐま座とは事業連携で、わくわくこどもランドにおいて人形劇を演じていただいたり、2019年11月にはこぐま座の人形劇で使った人形を展示するなど人形劇をテーマにした特別展を行い、人形浄瑠璃も子ども向けに実際にやってもらうなど、近隣の施設との連携も行っています。学校教育では総合学習の時間に来て学習してもらっており、また先生方の研修、国語研究会の集まりでここを使っていたこともあります。

事務局)

高文連（高等学校文化連盟）はあるものの高校の文学関係の部活動は少ないようですが、中学生、高校生を対象とした文学道場は2002年度から実施し、参加人数が少ないものの継続してやっているところです。コロナ禍前は対面のみでしたが、今は対面と同時にオンラインでも地方の生徒が参加できるように同時展開しています。

子どもにとって小説はハードルが高いようですが、文学館ならではの事業ですし、短歌コンテストもあるので、短歌を授業に取り入れてもらい、それをきっかけに文学館に来てもらえればと思います。小・中・高生短歌コンテストは、6,921名もの応募があり結構関心を持っていただいています。

新しいメニュー、企画はなかなか難しいところですが、コロナ禍になってからうまくできなかったこともありますので、新年度からは少し、もとの展開に戻して行けたらと考えています。

いろいろご意見をいただきましたので、今後の事業展開に参考にさせていただきたいと思います、ありがとうございます。